

# YOSHIKOのファッション通信

骨格タイプ診断で変わる印象 ~骨格ストレートさんの場合~

BEFORE



撮影協力：グリーンピアせとうち

AFTER



こんなスタイリングも♪



## 骨格タイプ診断ってなに？

骨・体格・質感を見せてもらい3タイプに分けて診断するシステムです。

### ▼ ストレート

上重心で腰位置が高くVネックやタイトスカートなどシンプルな洋服が似合う。

### ● ウェーブ

下重心でくびれがあるためウエストシェープのワンピースやゆるふわな洋服が似合う。

### ■ ナチュラル

フレーム感があり、いかり肩。長方形のストンとしたタイプなので丈が長めの重ね着が似合う。

骨格タイプストレートさんは首元がすっきりし、ボトムもタイトな洋服が似合います。

ブラウスは下だけボタンを締めてV開きのラインを作り、スカートは最近流行している、ふくらはぎまで体に沿ったシルエット、裾広がりマーマードスカートでコーディネートしました。「似合う」と「今の気分」をミックス。素敵なコーディネートができました。

# 安浦から日本一へ！！



安浦町を拠点とし活動する和太鼓グループ和☆Rock。その和☆Rockが指導する、子どもたちのグループ和☆Rock jr. 奏が9月25日兵庫県で開催された「太鼓祭 in 兵庫 第十二回西日本・南日本大会」に出場しました。この大会は、1次審査を通過した団体が出場しレベルの高い演奏が繰り広げられます。そして、上位3位までが日本一決定戦への切符を手にすることができます。オリジナル曲【雲外蒼天】で挑戦し、初出場ながら準優勝を獲得することができました。

12月11日に埼玉県で開催される「第十四回太鼓祭 2022 日本一決定戦」に出場します。和☆Rock jr. 奏のメンバーは「自分たちの力で少しでも和太鼓の魅力を広めたい」「出場するからには安浦町に1位を持ち帰りたい」と闘志を燃やしています。



# TANTO

No.53

発行  
令和4年12月10日

安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261 (年4回発行)

## コミュニティサロン〜繋ぐ〜

「コミュニティサロン繋ぐ」は、子どもから高齢者まで心も体も元気にする・安浦町の活性化を目指して、2022年4月に代表の住田ゆうさんが立ち上げスタートしました。現在、上田瓦商店さんのご厚意で、場所をお借りし運営しています。

理学療法士として10年、安浦町に住み始めて7年、高齢者と沢山関わる中で、外出機会が少なく孤立している方が多いと感じました。また、自身が出産し子育てをする中で、相談でき誰かと喋る場所が少ないと感じました。そして、お店などもっと町の情報が欲しいと思うようになり、ないなら自分が作ろうと一念発起しました。

今は小さな「道の駅」のようなマルシェ・フリーマーケットを行っており、楽しめる&癒される&学べる&繋がれる、笑顔溢れる空間を作っています。

今後は子育て世代や高齢者と共に、いろいろな講座や教室なども開催していきます。人と人・想いと想いを繋げ、必要な人に必要なことが届き、少しでも心と体が元気になる人が増えること、そして一人でも多く安浦町のことを知ってもらって町全体が元気になることを目指していきます。

Ⓜ 出店者さん・講師さん募集中です。お気軽にご連絡ください♪



Instagramにて常時情報発信しています。ぜひチェックしてください。



場所 上田瓦商店奥の古民家  
(安浦町中央6-5-6)

グーグルマップ  
「コミュニティサロン繋ぐ」で検索

## 宝くじ助成を活用しました！



真谷自治会長

中央ハイツ自治会では、町内放送設備を整備しました。これは、一般財団法人自治総合センターが、宝くじの社会貢献広報事業として、町内会など地域住民のコミュニティ組織が行う活動に必要な施設や設備の整備に対し助成を行う、一般コミュニティ助成事業を活用したものです。

中央ハイツ自治会では、今後、これらの支援を行事や放送による一斉連絡と地域の迅速な広報手段として役立てていきます。

整備された町内放送設備▶



# やすうら 記憶遺産

第26話

## 大正7年当時 南医院と画伯のアトリエ 洋画家・南薫造の生家



### 連載「やすうら記憶遺産」とは？

安浦町の風物を描き残した画家・山本譲 (1904-1994) の400枚にのぼる絵を通して、明治から昭和に至る安浦町の歴史や記憶を掘り起こし、絵の中の人々の暮らしを後世に伝えていく取り組みです。  
まちづくり広報誌「TANTO」紙上で2016(平成28)年No.28/9月号から連載を始め、今回で26回目のお話となります。

洋画家の南薫造(1883-1950)は、1883(明治16)年7月21日、広島県賀茂郡安浦町内海に生まれました。父の啓造は医者でした。広島第一中学校から東京美術学校西洋画科へ進み、卒業後はイギリス留学も果たし、のちに日本近代洋画を代表する画家となりました。自身が生まれた土地を、南はこよなく愛しました。瀬戸内の美しい情景は、画業の初期から、南薫造の重要なテーマとなりました。南は晩年、東京のアトリエから画材や絵を避難させ、その後、家族らと一緒に安浦に戻ってきました。戦後、南薫造は故郷の風景を暖かな小品として数多く残し、亡くなりました。

山本譲が若い頃、洋画の大家として名を成していた南薫造。遠い存在であった画家を追い、山本譲は南が死んだずっと後になって、自身も絵を絵描き始めます。故郷の安浦を描こう、そう決心した心の奥には、常に南薫造の姿があったことでしょうか。一方は、日本を代表する洋画家。一方は、無名の絵描き。けれども、このふたりの心はひとつです。それは、安浦を愛する、その思いなのです。

生家は現在、南薫造記念館として安浦のシンボルとなっています。山本譲は、記念館となったその場所に、400枚にのぼる安浦の絵を託して亡くなりました。

# 島根県の小学生、安浦町の海岸を探検♪



島根県の小学校5～6年生18名が、日本海と瀬戸内海の違いを学ぼうと安浦町にやってきました。その名も、「海の探検隊」  
これは、日本財団の海と人と人をつなぐことを目的とした「海と日本プロジェクト」活動です。

子どもたちは、拾った海洋ゴミを観察し、干潟の生物採集に夢中になり、楽しく学び感じ取っていました。この日のすべての体験から、人と自然とを大切にできる心を再認識できたのではないのでしょうか。安浦町から、多くの子どもたちに海と人とがつながる機会を作り続けていきたいですね。



とびはぜ



## みんなのひろば 4年目の活動 ハロウィーン&さつま芋掘り



こども食堂地域公開講座で発表

10月23日安浦会館において、みんなのひろば地域食堂が開催されました。子どもたちは思い思いにハロウィーンの仮装をして、午前10時から近所を練り歩きお菓子をゲット。その後11時頃から全員でさつま芋掘りに行きました。つるを切る、鍬で土を掘り起こす、子どもたちは芋を見つけおのおのスコップなどで取り出す。「おいもおっきいぞ〜」「いっぱいあるよ〜」大人も子どもも歓声を上げながら、大量な収穫祭となりました。

みんなのひろば地域食堂とは、毎月第4日曜日に手作りの温かい食事を、皆で作って皆で食べる食堂です。「自分も行っていいのかな」「食べるだけがいいな」など、遠慮なくお問い合わせ下さい。



問い合わせ先：安浦会館内 みんなのひろば事務局 0823-84-2579 ※要予約

やすうら再発見

## 散策のすすめ ◆ 呉市指定天然記念物 黒地の浜 地層(紅柱石)



安浦と東広島市安芸津町の境に黒地の浜という所があります。  
この浜には、太古の火山活動の地殻変動で、火山岩類の泥岩が露出していて、墨汁を流したような真っ黒な岩が露出しています。これは安芸津町大芝地域一帯の激しい地殻変動の結果です。海岸線では、褶曲した地層がみられ、潮流や波により浸食されて崖になっています。

黒地の浜の泥岩の中には、白色針状結晶の紅柱石が見られます。岩石の研究者によれば大変貴重なもので、今後この紅柱石の生成は望めないとのこと。

満潮時には、海岸を歩くことはできませんが、干潮時には、約8～9千万年前の地層の上に立つことができます。



黒地の浜 地層



この泥岩の中に光る紅柱石



大芝の褶曲した地層

※褶曲 地層が両サイドから大きな力が加わり地層が曲がりくねった状態になること